

学校教育活動 ～学校教育活動アンケート(教師・生徒・保護者)より～

指数の出し方

- ・ 選択肢は「4：当てはまる」「3：どちらかといえば当てはまる」「2：どちらかといえば当てはまらない」「1：当てはまらない」の4つとした。
- ・ 指数 = (4の人数×4点+3の人数×3点+2の人数×2点+1の人数×1点) ÷ 全体の人数
- ・ 指数は、アンケートが4つの選択肢に均等に分布した場合、2.5となる。
- ・ 指数が2.5P未満となるものは改善を要する課題、3.0P未満となるものは注意を要する課題と判断する。
- ・ []はR5前期との比較

◆短期的な課題

①分かりやすい授業

注目した項目とその指数・評価[教務主任]

教師：ねらいを明確にした授業を行っている	全校 3.5P[+0.3P]			
生徒：授業はわかりやすい	全校 3.3P[±0P]	1年 3.2P[-0.2P]	2年 3.4P[+0.1P]	3年 3.4P[+0.2P]
保護：おさんは授業がわかりやすいと思っている	全校 2.7P[±0P]	1年 2.8P[+0.1P]	2年 2.8P[+0.2P]	3年 2.7P[±0P]

分析[研究主任]

数値としては前期と大きく変わることはなかった。保護者が感じている意識との差を縮めることはできなかった。教師と生徒が「ねらいを共有して授業を行っている」のに対し、これが家庭にまで伝わるのが難しい。学校や家庭での学習のようすが保護者に見えづらいこと、評価テスト等で保護者が期待するような結果が出ていないことが理由として考えられる。

改善策・計画等[研究主任]

前期に引き続き、単元を通してつけたい力を教師と生徒が共有することで生徒が意欲的に授業に取り組むことができると考え、「ねらい(課題)を明確にした授業」を意識し、“教科等の目標や内容”と“子どもの実態”を踏まえて教材研究や授業実践を行ってきた。今後も、指導主事等からの指導・助言を受けながら、全教員が共通理解を図り、授業力向上に努めるとともに、生徒の基礎・基本の定着を図るため、習熟度を把握しながら授業を行うことはもとより、学び合いを取り入れた授業づくりとGIGA端末の効果的な活用を進めたい。また、教師と生徒でつくる授業の様子を、授業参観や配布物だけでなく、連絡配信アプリtetoruも活用しながら保護者に知ってもらえる機会を増やしたい。

②家庭学習の定着

注目した項目とその指数・評価[教務主任]

教師：家庭学習の習慣(1時間以上)が身についている	全校 2.6P[+0.2P]			
生徒：家では毎日1時間以上学習している	全校 3.0P[-0.2P]	1年 2.5P[-0.3P]	2年 3.2P[±0P]	3年 3.4P[+0.3P]
保護：家庭学習の習慣が身についている(1時間以上)	全校 2.7P[±0P]	1年 2.3P[-0.6P]	2年 2.5P[±0P]	3年 2.8P[-0.1P]

<参考 家庭学習時間調査(10月286名回答、12月261名回答)(平均時間(分)/R5年度7月の調査結果

10月	全学年66m	1年	43m / 41m	2年	63m / 66m	3年	91m / 78m
12月	全学年85m	1年	43m	2年	71m	3年	138m

分析[研究主任]

前期と比較して、全校生徒の意識は0.2Pの減少となったが、3学年では0.3Pの増加が見られた。また、保護者の意識としては1学年で大きく減少したものの、教師の意識では0.2P増加し、三者の差は縮まった。家庭学習時間調査の結果からは実際の学習時間がみえてくるが、前期と比較すると3学年では大幅増、2学年でも増加に転じている。1学年においては、7月と比較すると少々増加したが、家庭学習が習慣化している生徒とそうでない生徒の二極化がみられる結果となった。

家庭学習時間の平均は85分、2学年、3学年は増加傾向にあるということから考えると、学校全体での取組や各学年での取組に一定の成果が現れてきていると思われる。

改善策・計画等[研究主任]

家庭学習を定着・充実させるには、生徒一人一人に自分の目標を明確に持たせ、それに向けて「自ら課題を見つけ学習する意識」を育てることが重要だと考える。自主的に授業の復習をしたりワークを進めたりするなど、進んで学習することのできる生徒を育てたい。そのきっかけとなるよう、学習コンテストを継続して目標を達成する喜びを味わわせたい。また、キャリア教育(進路学習)を通して中学卒業後の夢や目標を持たせたい。来年度に向けて、前期からの取組を継続して行いたい。具体的には、家庭学習の方法や内容を具体的に伝えていくことと、各教科から定期的に家庭学習課題を設定することを全教員の共通実践として行いたい。

◆中・長期的な課題

③SNSやインターネットの使用のルール ④SNSやインターネットの使用と学習 ※動画・ゲームも含む

注目した項目とその指数・評価[教務主任]

③ 家庭では、SNS等の使用について ルールを決めている	生徒: 全校 2.7P [-0.1P]	1年 2.8P[-0.1P]	2年 2.8P[±0P]	3年 2.6P[+0.1P]
	保護: 全校 2.8P [±0P]	1年 2.6P[-0.4P]	2年 2.5P[-0.3P]	3年 2.6P[-0.4P]
④ SNS等は学習に支障のないように 使用している	生徒: 全校 3.1P [±0P]	1年 3.2P[+0.1P]	2年 3.1P[-0.1P]	3年 2.9P[-0.1P]
	保護: 全校 2.7P [±0P]	1年 2.5P[-0.4P]	2年 2.6P[-0.2P]	3年 2.5P[-0.4P]

<参考 生活アンケートより> ※数値は生徒の割合(%)

・ SNSやインターネット等に1時間以上/3時間以上費やす	1年 78/28 [+7/ -1]	2年 91/25 [+5/ -2]	3年 84/28 [-4/ -2]
<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS ・ 動画サイト ・ ゲーム 	1年 41/ 7 [-9/-10]	2年 41/ 6 [+6/ +2]	3年 50/10 [-3/ +3]
	1年 46/12 [-10/ -9]	2年 59/ 9 [+3/ -1]	3年 57/13 [-6/ +3]
	1年 44/ 8 [-6/ -3]	2年 48/ 8 [±0/ +1]	3年 34/ 6 [-3/ -3]

分析[生徒指導主事・研究主任]

前期に比べて、特に1年生では長時間使用している生徒の割合が減少した。生徒がどの程度インターネット関係に時間を費やしているかを見ると、3学年でゲームに費やす割合は減少したものの、その分SNSや動画サイトに費やす割合は増加した。ただし、どのような内容でインターネットを活用しているのかまではこのアンケートからは見えてこない。学習の動画等もアップされていることもあるので、内容面を見ていく必要もあると考えられる。

スマートフォンやタブレットが生活に根付き、1人1台かそれ以上となる流れはもはや止めようがなく、1時間程度の使用はあるという前提で、「3時間以上費やす」割合をどのように減らし、生活の時間の活用を考えることが大切である。

改善策・計画等[生徒指導主事・研究主任]

SNS上のトラブルやそれがきっかけで起こった問題等は数件発生しているが、その使用について生徒たちは全体的にネット上のモラルや個人情報の発信、不用意な書き込みで相手を傷つけないように、気をつけているのではないだろうか。

一方で、「推し活」という言葉が注目されるようになり、インターネットさえあれば、中学生が自分の興味や嗜好の対象に多くの時間を費やすことが可能であり、SNSや動画サイトはそのために活用される。本校のみならず、全国の中学生は自分の生活時間をどのようにコントロールできるのかが大きな課題である。

この問題に対して、携帯電話キャリア企業等と連携し、「自分の生活の中にスマートフォン等のデバイスをどうやって適切に位置づけるか」を学ぶ場を設定し、その学びから生徒が自分の課題として解決に向けて取り組んでいくことを目指す。

◆学校関係者評価委員からのご意見

・小学校では「家庭学習ばっちりウィーク」と称して家庭での時間の使い方について考えるきっかけになるよう取り組んでいる。スマホやゲームに時間を費やしすぎてしまう問題には同じように悩んでいるが、これからも問題を共有していきましょう。

生徒指導 ～生活アンケート(生徒)より～

評価の方法とその基準

- ・ 選択肢は「4：当てはまる」「3：どちらかといえば当てはまる」「2：どちらかといえば当てはまらない」「1：当てはまらない」の4つとした。
- ・ ①②③④については「4：できている」と回答した生徒の%をもとに、以下のように評価した。
80%以上→A 60%以上→B 45%以上→C 45%未満→D
- ・ ⑤については「1：できていない」「2：できていないことが多い」と回答した生徒の割合を以下のように評価した。
5%以下→A 10%以下→B 20%以下→C 20%以上→D
- ・ 評価がBCDの場合は、取組の検討・改善を行う。

①近所の人への挨拶

質問項目とその結果・評価[教務主任]	分析[生徒指導主事]	改善策・計画など[生徒指導主事]
「近所の人に会った時はあいさつしていますか」 全校 49% → 評価C [45%→評価C] 1年生 42% [R5 1年前期 39% より 3% ↑] 2年生 51% [R5 2年前期 50% より 1% ↑] 3年生 54% [R5 3年前期 49% より 5% ↑]	前期より、各学年少しだが上昇した。できていることを評価し、さらに向上することができると期待できる。しかし、まだまだ割合が低いので継続して指導していく。	引き続き、あいさつの重要性を折に触れて説き、教師自らがさわやかに挨拶をしながら指導を続ける。できたことを認める活動や生徒会を中心としたあいさつの活動を通して、自己肯定感を高めるような指導を続けていく。

②先生や大人に対しての敬語

質問項目とその結果・評価[教務主任]	分析[生徒指導主事]	改善策・計画など[生徒指導主事]
「先生方などの大人に対して、敬語を使っていますか」 全校 62% → 評価B [61%→評価B] 1年生 55% [R5 1年前期 57% より 2% ↓] 2年生 66% [R5 2年前期 65% より 1% ↑] 3年生 66% [R5 2年前期 61% より 6% ↑]	日々の経験値として敬語等の使い方がわかっていないと思われる。学年が上がるにつれて良くなる傾向があるので、今後の活動を通してさらに向上できるようにする。	日常生活での指導とともに、授業中も発表の模範を示し、正しい敬語を学ぶ場とする。職員室の出入りの際等、機会をとらえて正しい言葉遣いができるように指導する。

③チャイム前着席

質問項目とその結果・評価[教務主任]	分析[生徒指導主事]	改善策・計画など[生徒指導主事]
「チャイム前着席はできていますか」 全校 54% → 評価C [53%→評価C] 1年生 52% [R5 1年前期 40% より 12% ↑] 2年生 58% [R5 2年前期 59% より 1% ↓] 3年生 54% [R5 3年前期 63% より 9% ↓]	肯定的な数値の割合は95%と生徒はできていると感じている。1年生は前期よりもできたと実感する生徒が多い。他の学年も肯定的な数値は2年：99%、3年95%と数値は高い。	生活委員会の取組等を通して、できたところを認めて褒めるようにする。授業者は、「チャイムスタート・終了」を意識していく。授業者が早めに教室に向かうなど教師の意識も高めていけるようにする。

④朝学習(読書)

質問項目とその結果・評価[教務主任]	分析[生徒指導主事]	改善策・計画など[生徒指導主事]
「朝学習(読書)は静かにできていますか」 全校 69% → 評価B [68%→評価B] 1年生 61% [R5 1年前期 60% より 1% ↑] 2年生 77% [R5 2年前期 80% より 3% ↓] 3年生 70% [R5 3年前期 68% より 2% ↑]	肯定的な数値は1年:91%、2年:95%、3年:94%と高くなっている。できていることに自信を持たせて、自己肯定感を高められるようにする。	2学期になり、登校が遅れる生徒が増えてきたと実感している。朝の落ち着いた雰囲気を作ることや、図書館の利用を促し、読書をする習慣を身につけられるように支援する。

⑤忘れ物

質問項目とその結果・評価[教務主任]	分析[生徒指導主事]	改善策・計画など[生徒指導主事]
「忘れ物をせずに授業に参加できていますか」 ※「できていない」「できていないことが多い」の回答 全校 7% → 評価B [9%→評価B] 1年生 9% [R5 1年前期 12% より 3% ↑] 2年生 2% [R5 2年前期 5% より 3% ↑] 3年生 7% [R5 3年前期 7% より →]	1年生において、忘れ物が多いと感じられる。様々な方法で必要なものを確認することや、予定を確実に聞くなどの対策が必要である。	継続してCL(クラスリーダー会)の取り組みを行うとともに、「ひかりの」の活用を促していく。教科書等は置いていってもよいので、各クラスの予定係の活動を活発化させ、教室内の予定黒板が確実に更新されるようにクラスで呼びかけを行う。

◆その他 学校関係者評価委員からのご意見

- ・行事で生徒が全力で取り組んでいる様子を拝見し、学校生活の充実ぶりが伝わってきた。
- ・学校が忙しく、大変なのは重々承知しているが、地域など学校外で活躍する生徒の姿を先生方にも見てほしい。生徒を多面的・多角的に見ることにつながり、問題を抱えた生徒に対する向き合い方を考えるきっかけになると思う。
- ・「将来の夢や目標をもっている」の項目がさらに向上していくように、授業の中でも仕掛けをちりばめていってほしい。
- ・3年生の「学校は楽しい」という項目が高評価であり、D評価が0というのは非常に素晴らしい結果である。小学校では、この項目で低評価をつけた児童を全教職員が把握して、重点的に認める声かけをするようにしている。
- ・我が子の充実した様子から、安心して学校生活が送れていると思っており、感謝している。
- ・ファジーさを残しがちな日本人のメンタルを考慮しても、ネガティブな評価が0の項目があることは評価できる。中学生は毎日忙しそうにしている、アンケートでは見えてこない部分もあると思われる。そういった部分をこれからも見逃さずをお願いしたい。
- ・「保護者としてPTA活動や学校行事に参加している」の項目がD評価13%という結果が出ている。今年度、PTAのあり方を変えるべく着手したが、来年度も大きく変革する予定なので、この項目自体を検討する必要があると思う。